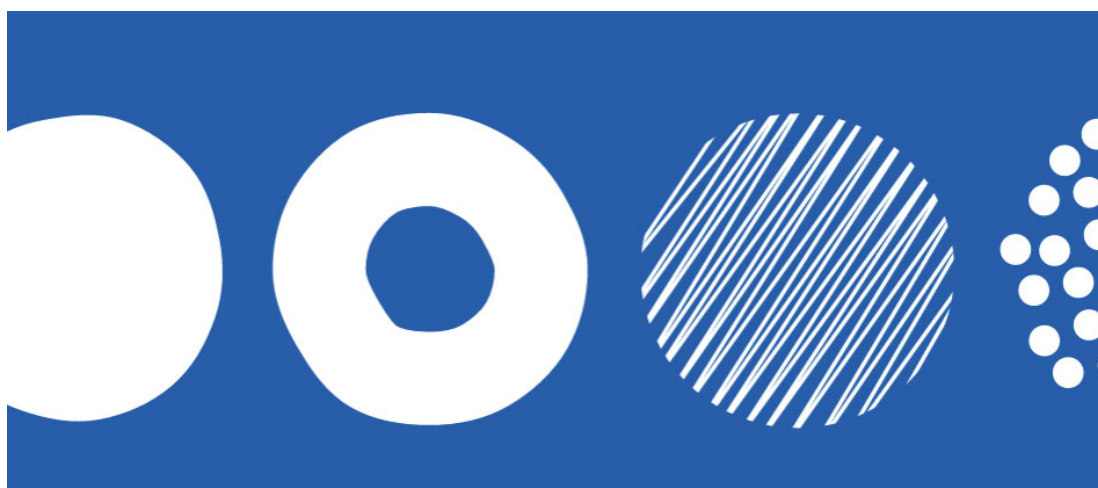


教育実践力育成のための学びの航跡

教職実践ポートフォリオ

(2023 版)

1 年次から 4 年次の学びで身に付けた力を，自らのデータファイルである履修カルテとして『教職実践ポートフォリオ』を活用します



岡山大学教育学部

目次

1. 教職実践ポートフォリオとは.....	1
2. 教育実践力を構成する力.....	1
①授業実践力・保育実践力・養護実践力.....	1
②子供理解力.....	2
③人間関係力.....	2
④教師として自己を高める力.....	2
表1 課程・専攻別における4つの教育実践力を構成する力の項目.....	3
図1 教育実践力を構成する4つの力の関係図.....	4
表2 教育学部のカリキュラムにおける5つの期のねらい.....	5
3. 教育実践力向上カリキュラム.....	5
小学校教育専攻のカリキュラム構想図.....	6
中学校教育専攻のカリキュラム構想図.....	6
地域教育コース（小学校）・（中学校）のカリキュラム構想図.....	7
特別支援教育専攻のカリキュラム構想図.....	8
幼児教育専攻のカリキュラム構想図.....	9
養護教諭養成課程カリキュラム構想図.....	9
4. 教育実践ポートフォリオの使い方について.....	10
（1）教職実践ポートフォリオの目的.....	10
（2）教職実践ポートフォリオの内容.....	10
①1年次4学期.....	10
②2年次.....	10
③3年次.....	11
④4年次.....	11
表3 ポートフォリオ目標作成と記録記入・担当教員との面談の時期.....	12

教育実践力育成のための学びの航跡 ～教職実践ポートフォリオの活用について～

1. 教職実践ポートフォリオとは

教員免許の取得を目指す皆さん。そして、教師として子供たちの幸せのために働こうと考えている皆さん。「ポートフォリオ (portfolio)」は、もともと書類や作品を入れるファイルという意味ですが、教育分野では「自分のこれまでの学びの成果をファイルしたもの」という意味で使われています。

『教職実践ポートフォリオ』は、皆さんが1年次から4年次の学びにおいて、自らの教育実践力を大切に育んできた学びの航跡です。身につけた力は「授業実践力・保育実践力・養護実践力」「子供理解力」「人間関係力」「教師として自己を高める力」の4つの力で振り返ります。『教職実践ポートフォリオ』が、皆さんの確かな教育実践力を育成する上での羅針盤となり、豊かな学びの航海日誌となることを願っています。

2. 教育実践力を構成する力

岡山大学教育学部では、教育実践力を身につけるために、実習（及び事前・事後科目）を機軸として、授業で培った知識や思考力などが連動する、教育実践力向上カリキュラム（スパイラル・モデル）で学びを積み上げて統合します。教育実践力向上カリキュラムは、次の4つの力で構成された教育実践力を獲得し形成することを目標としています。

① 授業実践力・保育実践力・養護実践力

子供の深い学び・豊かな学びの開発と実現

② 子供理解力

子供の成長の現実をみとり、成長を支える環境づくり

③ 人間関係力

多様な人たちをつなぎ、交流を深める

④ 教師として自己を高める力

憧れをもって学び続け、新たな学校教育を見通す

①の実践力は、小学校教育専攻、中学校教育専攻、特別支援教育専攻は「授業実践力」、幼児教育専攻は「保育実践力」、養護教諭養成課程は「養護実践力」と課程・専攻により、それぞれの専門で獲得すべき実践力に設定されています。②子供理解力、③人間関係力、④教師として自己を高める力は、教職を目指すものとして、共通する力です。これら4つの力は、「授業実践力・保育実践力・養護実践力」をコアとして、「子供理解力」、「人間関係力」、「教師として自己を高める力」を相互に関連づけ、学びをデザインできる教師としての『教育実践力』を育成します。

①-1 授業実践力（小学校教育専攻、中学校教育専攻、特別支援教育専攻）

教師になるためには、まず何よりも授業実践力を身に付ける必要があります。子供が学ぶ楽しさを味わい、分かる喜びを体験できるように、教師は社会や文化をより深く理解し、子供の学習を指導する力を身に付けていく必要があります。そのためには、授業をつくる課題設定・評価・改善する力、教材研究や授業を構想し、展開する力について学習指導要領を理解し、進めていくことが必要です。

①-2 保育実践力（幼児教育専攻）

幼稚園教諭として、子供が遊びを通して学ぶ楽しさを味わい、総合的な体験ができるように、子供や子供を取り巻く環境をより深く理解し、保育を実践する力を身に付けていく必要があります。子供の心身の発達過程、5領域のねらいや内容、内容の取扱いなどについて系統的に学習・研究し、保育計画の立案、展開、分析・省察等の学びを実習において子供の育ちを促す実践力として身に付けることが必要です。

①-3 養護実践力（養護教諭養成課程）

養護教諭は、学校に置かれる教育職員として、保健管理、保健教育、健康相談、保健室経営、保健組織活動を行い、学校保健の中核を担っています。近年の社会状況の変化を背景として、いじめ・虐待・貧困等の課題が急増するとともに、子供の心身の健康課題も多様化、複雑化しており、これらの変化や諸課題に対応し得る力量が必要です。あらゆる発達段階にある子供の健康課題についてアセスメントする力が必要であり、子供が自ら健康課題を解決するための「生きる力」を育みます。

②子供理解力

学校教育では、子供の人格を完成させていくという学校教育の目的・目標を達成するために、一人一人の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めるように指導、援助するために子供理解は不可欠です。具体的には、子供の発達段階の把握と基本的な生活習慣の実態や学習意欲、集団としての特性を理解し、基本的な社会基盤やルールを守れる人格を形成できる指導と、学びの主体者としての理解を深めることが必要です。

③人間関係力

子供と日常的コミュニケーションを図り、子供の思いやニーズをとらえながら、子供が自分で考えることができるように働きかけることができることは重要です。また、学校の自主性、自律性が求められる中において、保護者や地域と連携・協力し、開かれた学校・学級づくりを一層推進していく必要があります。学級PTAをはじめとする様々な機会に、保護者や地域の人々のニーズを理解し、連携して教育実践することが求められています。また、「総合的な学習の時間」等の実施にあたっては、地域の人々と共同することで、充実した取り組みになります。時には、児童福祉施設や病院等、子供や家庭に関わる専門機関と連携して関わることもあります。

様々な人と協力・連携するには、多様な考え方を受け入れることと並行して自分の考えを正確に伝える力量は、対等で良好な人間関係を築くためには不可欠です。それは、学級経営にも重要です。

④教師として自己を高める力

教育への情熱をもち、人間力を高め、学び続ける教員を目指すために資質・能力を磨くことは、「自立に向かって成長する子供」の育成のために大切な姿勢です。教員を目指すものとして、自分に求められている資質・能力において目標をもち、実践を積み重ねながら振り返り、改善することを繰り返し、学び続けることが重要です。また、チームの一員として、お互いの資質・能力の向上を意識し、自らの成長を高めたり、課題解決に取り組むだけでなく、自らの教師像・教育観を高める視野をもつことも必要です。

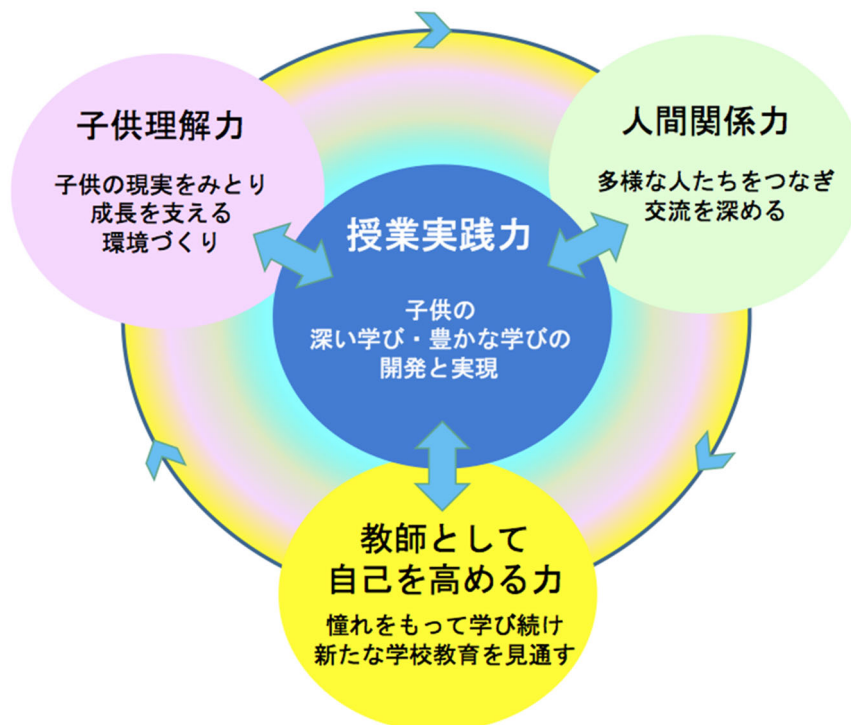
教育実践力を構成する４つの力の項目は、めざす専門性に即した力と、教師として共通する力で構成されています（表１）。

表１ 課程・専攻別における４つの教育実践力を構成する力の項目

小学校教育専攻 中学校教育専攻 特別支援教育専攻	幼児教育専攻	養護教諭養成課程
A 授業実践力	A 保育実践力	A 養護実践力
A1 課題設定・評価・改善力 A2 教材研究力 A3 授業構想力 A4 授業展開力 A5 カリキュラム・マネジメント力	A1 保育内容を理解する力 A2 保育計画を立案する力 A3 保育を展開する力 A4 保育を分析・省察する力 A5 カリキュラム・マネジメント力	A1 健康課題をとらえる力 A2 養護実践を立案する力 A3 養護実践を展開する力 A4 養護実践を分析・省察する力 A5 カリキュラム・マネジメント力
B 子供理解力	B 子供理解力	B 子供理解力
B1 学習者理解力 B2 生徒指導・教育相談力 B3 学習集団づくり力	B1 子供の心身の発達と環境を理解する力 B2 子供の生活や遊びを理解する力 B3 子供の思い・人間関係を理解する力	B1 子供の心身の発達と環境を理解する力 B2 子供の健康に関連する要因を理解する力 B3 健康をともにつくる集団を育む力
C 人間関係力	C 人間関係力	C 人間関係力
C1 対話・コミュニケーション力 C2 学級経営力 C3 保護者・地域社会とつながる力	C1 対話・コミュニケーション力 C2 学級をマネジメントする力 C3 保護者・地域社会とつながる力	C1 対話・コミュニケーション力 C2 保健室経営力 C3 保護者・地域社会とつながる力
D 教師として自己を高める力	D 教師として自己を高める力	D 教師として自己を高める力
D1 教師としての使命感・情熱・向上心 D2 教師像・教育観を更新する力 D3 チームとして成長する力	D1 教師としての使命感・情熱・向上心 D2 教師像・教育観を更新する力 D3 チームとして成長する力	D1 教師としての使命感・情熱・向上心 D2 教師像・教育観を更新する力 D3 チームとして成長する力

教育学部では、独自のカリキュラムで「授業実践力」をコアに「子供理解力」,「人間関係力」,「教師として自己を高める力」を相互に関連づけ,学びをデザインできる教員としての『教育実践力』を育成します(図1)。

図1 <教育実践力を構成する4つの力>



これらの4つの力について、大学での各授業科目でその理論を学ぶとともに、学んだ理論をいかして教育現場で実習することで、教育実践力を育成します。学びを意識して準備を整え、あらゆる機会を捉えて積極的に教育現場で学び、学びを振り返って次にいかすプロセスにポートフォリオを位置づけることで、教育実習・体験的授業科目と専門科目が連動し、有機的なカリキュラムを実現します。

教育学部のカリキュラムでは、学部の4年間を5つの期に分け、それぞれの時期のねらいを設け、実習を基軸としたスパイラル・モデルで教育実践力を身につけます（表2）。

表2 各期のねらいと身につけたい力

学年	期	ねらい
1年次（1・2学期）	教職への意欲向上期	教育実践の世界に誘い、教職に対する夢と希望をさらにふくらませる
1年次（3・4学期）	教職実践理解期	教育実践の諸構成要素および実践に関する知識理解をふくらませ、教育実践観を拡張する
2年次（1・2学期）		
2年次（3・4学期）	基礎的教育実践力養成期	基礎的教育実践力を身につけ、多様な教育実践を経験する中でそれを高める
3年次（1・2学期）		
3年次（3・4学期）	発展的教育実践力養成期	教育実践をめぐる新しい課題について理解し、学校現場における自らの実践を振り返り、教育実践力を高める
4年次（1・2学期）		
4年次（3・4学期）	採用前研修期	教育実践を研究する力量及び即実践力としての教育実践力を高める

3. 教育実践力向上カリキュラム（スパイラル・モデル）

教育実践力を身につけるカリキュラムは、実習（及び事前・事後科目）を機軸として、授業で培った知識や思考力などが連動する、積み上げて統合するスパイラル方式で向上を目指しています。

今現在達成できた実践力は、どのような科目、演習、実習で培われたのかを具体的に振り返ることで、学びの積み上げの航跡を意識することができます。さらに、これから獲得すべき・したい実践力のためにどのように学びをすすめていくのかを考えるためにも、ポートフォリオに取り組むことは重要です。

ポートフォリオ記入や、担当教員との面談の時にも、講義資料やレポート、指導案や板書計画等と一緒に、専攻・課程のカリキュラム構想図をみながら振り返りや目標立案を行ってみましょう。

【小学校教育専攻のカリキュラム構想図】

カリキュラムの理念：高度な教育実践力をもつ小学校教員の養成

実習（及び事前・事後科目）を軸とし、大学の授業で培った知識や思考力等が連動する、教育実践力向上カリキュラム。複数教科を指導する小学校教員の特性に応じたスキルをもった、「授業研究推進力」を有する教員の育成。

	1 学期	2 学期	3 学期	4 学期
4 年生	指導法開発Ⅱ (2) (繰り返し履修)：授業研究マネジメント (3 年次指導法開発Ⅰと同じ科目)	教育実習Ⅲ：副実習	教職実践演習 (2) (必修)	
			教職実践インターンシップ (1) (必修)	
3 年生	指導法開発Ⅰ (2) (必修)：教材・単元開発と学習評価 (2 単位×国算理社英音図体家から 1 教科)			内容開発 (2) (必修)：教材・単元開発 (2 単位×国算理社英音図体家から 1 教科)
		教育実習Ⅱ (4)：主実習〔観察 (2 学期 1 週間) + 教壇実習 (3 学期 3 週間)〕		
	教育実習基礎研究 (2)：実習事前指導 (学習指導計画、模擬授業)			実習事後指導
2 年生	内容構成論Ⅰ (6) (必修)：教材分析 (1 単位×国、1 単位×算、1 単位×理社英から 2 教科、 1 単位×音図体家から 2 教科)		内容構成論Ⅱ (2) (必修)：単元・カリキュラム分析 (1 単位×国算理社英音図体家から 2 教科)	
	指導法Ⅰ (10) (必修)：教科の各領域の教材論と指導法 (1 単位×10 教科)		指導法Ⅱ (2) (必修)：教科の教材・単元デザイン (1 単位×国算理社英音図体家から 2 教科)	
	教育実習Ⅰ (1) (1・2 学期 2 日間 + 3 学期 2 日間)：授業観察・分析の実際			
	教育実習基礎演習 (1)：授業の観察力・分析力の伸長			
1 年生	内容基礎 (10) (必修)：教科を構成する基礎的内容 (1 単位×10 教科)		指導法基礎 (10) (必修)：教科の目標、子どもの実態を踏まえた指導法 (1 単位×10 教科)	
	教職実践入門セミナー (1)：教育的課題について主体的協働的に学び合うことを通して、教員をめざす自らの学びの方向性を確認する			教育実習基礎論 (1)：授業づくりの基礎 授業観察・分析法

【中学校教育専攻のカリキュラム構想図】

カリキュラムの理念：高度な教育実践力をもつ中学校教員の養成

実習（及び事前・事後科目）を軸とし、大学の授業で培った知識や思考力等が連動する、教育実践力向上カリキュラム。教科の専門性を発揮し、「授業研究推進力」を有する教員の育成。

	1 学期	2 学期	3 学期	4 学期
4 年生	指導法開発Ⅱ (2) (繰り返し履修)：授業研究マネジメント (3 年次指導法開発Ⅰと同じ科目)	教育実習Ⅲ：副実習	教職実践演習 (2) (必修)	
			教職実践インターンシップ (1) (必修)	
3 年生	指導法開発Ⅰ (2) (必修)：教材・単元開発と学習評価			内容開発 (2) (必修)：教材・単元開発
	内容構成論Ⅱ (8) (必修)：単元・カリキュラム分析			
		教育実習Ⅱ (4)：主実習〔観察 (2 学期 1 週間) + 教壇実習 (3 学期 3 週間)〕		
	教育実習基礎研究 (2)：実習事前指導 (学習指導計画、模擬授業)			実習事後指導
2 年生	教科の専門的事項に係る科目群 (12)			
	指導法Ⅰ (2) (必修)：教科の各領域の教材論と指導法		指導法Ⅱ (2) (必修)：教科の教材・単元開発	
	教育実習Ⅰ (1) (1・2 学期 2 日間 + 3 学期 2 日間)：授業観察・分析の実際			
	教育実習基礎演習 (1)：授業の観察力・分析力の伸長			
1 年生	内容構成基礎 (2) (必修)：教科を構成する基礎的内容		内容構成論Ⅰ (8) (必修)：教材分析	
			指導法基礎 (2) (必修)：教科の目標、子どもの実態を踏まえた指導法	
	教職実践入門セミナー (1)：教育的課題について主体的協働的に学び合うことを通して、教員をめざす自らの学びの方向性を確認する			教育実習基礎論 (1)：授業づくりの基礎 授業観察・分析法

【地域教育コース（小学校）のカリキュラム構想図】

カリキュラムの理念：

地域学校協働の観点から学校と地域双方の持続可能な活性化を志向し、高度な教育実践力をもつ小学校教員の養成
実習（及び事前・事後科目）を軸とし、大学の授業で培った知識や思考力等が連動する、教育実践力向上カリキュラム。
複数教科を指導する小学校教員の特性に応じたスキルをもった、「授業研究推進力」を有する教員の育成。

	1 学期	2 学期	3 学期	4 学期
4 年生	指導法開発Ⅱ (2) (繰り返し履修)：授業研究マネジメント (3 年次指導法開発Ⅰと同じ科目)	教採	教職実践演習 (2) (必修)	
	教育実習Ⅲ：副実習		教職実践インターンシップ (1) (必修)	
3 年生	指導法開発Ⅰ (2) (必修)：教材・単元開発と学習評価 (2 単位×国算理社英音図体家から 1 教科)			内容開発 (2) (必修)：教材・単元開発 (2 単位×国算理社英音図体家から 1 教科)
	地域学校協働研究Ⅲ (2)	社会に開かれた教育課程論 (1)		
	教育実習Ⅱ (4)：主実習〔観察 (2 学期 1 週間) + 教壇実習 (3 学期 3 週間)〕			
	教育実習基礎研究 (2)：実習事前指導 (学習指導計画、模擬授業)			実習事後指導
2 年生	内容構成論Ⅰ (6) (必修)：教材分析 (1 単位×国、1 単位×算、1 単位×理社英から 2 教科、 1 単位×音図体家から 2 教科)		内容構成論Ⅱ (2) (必修)：単元・カリキュラム分析 (1 単位×国算理社英音図体家から 2 教科)	
	指導法Ⅰ (10) (必修)：教科の各領域の教材論と指導法 (1 単位×10 教科)		指導法Ⅱ (2) (必修)：教科の教材・単元デザイン (1 単位×国算理社英音図体家から 2 教科)	
	地域学校協働研究Ⅱ (2)	生涯学習論 (1)	地域教育行政論 (1)	
	地域学校協働アクティブスタディ B (1)			
	教育実習Ⅰ (1) (1・2 学期 2 日間 + 3 学期 2 日間)：授業観察・分析の実際			
	教育実習基礎演習 (1)：授業の観察力・分析力の伸長			
1 年生	内容基礎 (10) (必修)：教科を構成する基礎的内容 (1 単位×10 教科)		指導法基礎 (10) (必修)：教科の目標、子どもの実態を踏まえた指導法 (1 単位×10 教科)	
	地域学校協働研究Ⅰ (2)	地域学校協働フィールドワーク (2)	地域学校協働アクティブスタディ A (1)	
	教師への道 (仮称) (1)：教育的課題について主体的協働的に学び合うことを通して、教員をめざす自らの学びの方向性を確認する			教育実習基礎論 (1)：授業づくりの基礎 授業観察・分析法

【地域教育コース（中学校）のカリキュラム構想図】

カリキュラムの理念：

地域学校協働の観点から学校と地域双方の持続可能な活性化を志向し、高度な教育実践力をもつ中学校教員の養成
実習（及び事前・事後科目）を軸とし、大学の授業で培った知識や思考力等が連動する、教育実践力向上カリキュラム。
教科の専門性を発揮し、「授業研究推進力」を有する教員の育成。

	1 学期	2 学期	3 学期	4 学期
4 年生	指導法開発Ⅱ (2) (繰り返し履修)：授業研究マネジメント (3 年次指導法開発Ⅰと同じ科目)	教採	教職実践演習 (2) (必修)	
	教育実習Ⅲ：副実習		教職実践インターンシップ (1) (必修)	
3 年生	指導法開発Ⅰ (2) (必修)：教材・単元開発と学習評価			内容開発 (2) (必修)：教材・単元開発
	内容構成論Ⅱ (8) (必修)：単元・カリキュラム分析			
	地域学校協働研究Ⅲ (2)	社会に開かれた教育課程論 (1)		
	教育実習Ⅱ (4)：主実習〔観察 (2 学期 1 週間) + 教壇実習 (3 学期 3 週間)〕			
	教育実習基礎研究 (2)：実習事前指導 (学習指導計画、模擬授業)			実習事後指導
2 年生	教科の専門的事項に係る科目群 (12)			
	指導法Ⅰ (2) (必修)：教科の各領域の教材論と指導法		指導法Ⅱ (2) (必修)：教科の教材・単元開発	
	地域学校協働研究Ⅱ (2)	生涯学習論 (1)	地域教育行政論 (1)	
	地域学校協働アクティブスタディ B (1)			
	教育実習Ⅰ (1) (1・2 学期 2 日間 + 3 学期 2 日間)：授業観察・分析の実際			
	教育実習基礎演習 (1)：授業の観察力・分析力の伸長			
1 年生	内容構成基礎 (2) (必修)：教科を構成する基礎的内容		内容構成論Ⅰ (8) (必修)：教材分析	
	指導法基礎 (2) (必修)：教科の目標、子どもの実態を踏まえた指導法			
	地域学校協働研究Ⅰ (2)	地域学校協働フィールドワーク (2)	地域学校協働アクティブスタディ A (1)	
	教師への道 (仮称) (1)：教育的課題について主体的協働的に学び合うことを通して、教員をめざす自らの学びの方向性を確認する			教育実習基礎論 (1)：授業づくりの基礎 授業観察・分析法

【特別支援教育専攻のカリキュラム構想図】

カリキュラムの理念：高度な（圧倒的な）教育実践力をもつ特別支援学校教員の養成

実習（及び事前・事後科目）を軸とし、大学の授業で培った知識や思考力等が連動する、教育実践力向上カリキュラム。

特別支援教育に関する「授業研究推進力」を有する教員の育成。

	1 学期	2 学期	3 学期	4 学期
4 年生		教育実習Ⅲ：副実習	教職実践インターンシップ〔教職志望〕：採用前研修的 または、〇〇研究〔教職以外〕（選択） 教職実践演習（2）（必修）	
3 年生 （ゼミ）	＜関連講義＞各障害種別の教育課程・方法論（6）（必修）：知的障害者教育課程・方法論、肢体不自由者教育課程・方法論、病弱者教育課程・方法論；教科別指導、各教科等を合わせた指導、自立活動の授業づくりに関する講義、小学部・中学部・高等部教員による授業映像を用いた実践の紹介と討議、附属特別支援学校の授業参観		特別支援学校教育実習Ⅱ（3）：主実習 〔観察（2 年次 1 週間）+ 教壇実習（3 学期 3 週間）〕 11 月（小の B グループと同日程）	知的障害者指導論（2）（必修）：授業実践の分析と解釈、附属特別支援学校教員による授業映像を用いた実践の紹介と討議（教育実習Ⅱの体験を省察する機会でもある）
		「特別支援教育実習基礎研究」（2）（必修）：実習事前指導（岡山県の特別支援教育、学習指導案の作成、授業づくり）		実習事後指導
		【小学校】教育実習Ⅱ（基礎免）：小と合同（6 月、1 週間）	【小学校】教育実習Ⅱ（基礎免）：小学校教育実習Ⅱにおける A グループ（9 月～10 月半、3 週間）に参加する（B グループ（11 月、3 週間は、特支実習Ⅱと重複不可）	
2 年生 （担任）	＜関連講義＞主として知肢病以外の教育論及び教育史（9）（必修）：視覚障害者教育概論、聴覚障害者教育概論、重度・重複障害者教育概論、病弱者心理・生理・病理学概論		障害者教育史概論、発達障害者心理概論	
	【通年】特別支援教育実習Ⅰ（1 単位）（1 学期 5 月の 5 日間）：授業観察・参加・児童生徒の実態把握		【通年】特別支援教育実習Ⅰ（3 学期 11 月の 1 日間）：特別支援教育実習Ⅰと同じ学部の研究授業を参観し、その省察会に参加する。教育実習Ⅱにおいても同じ学部・クラスに配属される。	
1 年生 （担任）	＜関連講義＞教育、心理、病理の基礎（8）（必修）：特別支援教育概論		知的障害者心理学概論、肢体不自由者心理・生理・病理学概論、知的障害者生理・病理概論	
	教師への道（2）：教育的課題について主体的協働的に学び合うことを通して、教員をめざす自らの学びの方向性を確認する。 教養科目（教職実践入門セミナー）（1）：特別支援教育を専攻することとはどういうことかに関する基本的理解を図る。			

【幼児教育専攻のカリキュラム構想図】

カリキュラムの理念：高度な教育実践力をもつ幼稚園教員の養成

実習（及び事前・事後科目）を軸とし、大学の授業で培った知識や思考力等が連動する、教育実践力向上カリキュラム。保育内容と総合的指導という専門性を発揮して「教育実践を開発する力」を有する教員の育成。

	1 学期	2 学期	3 学期	4 学期
ゼミ	4 年生		教職実践演習 (2) (必修)	
		教育実習Ⅱ：副実習	教職実践インターンシップ (1)	
	3 年生	保育内容の指導法 (2) (必修)：領域の具体的指導の理解 (1 単位×2 領域)		
		教育実習Ⅰ (4)：主実習 (観察 (2 学期 1 週間) + 実践実習 (3 学期 3 週間))		
		教育実習基礎研究 (2)：実習事前指導 (学習指導計画、模擬保育)		実習事後指導
		保育実習ⅠB・事前事後指導 (1.5) (必修)：(福祉施設での 2 週間実習と事前事後指導)：臨床的関わりの実践理解		保育実習Ⅱ・事前事後指導 (2) (必修)：(保育所での 2 週間実習と事前事後指導)：保育の実践理解 (その 2)
		幼児カリキュラム開発 (2) (必修)：週案作成と月案作成と年間指導計画作成の関係理解 + ナレッジマネジメントの説明		
	2 年生	保育内容の指導法 (5) (必修)：領域の具体的指導の理解 (1 単位×5 領域)	保育内容の指導法 (5) (必修)：領域の具体的指導の理解 (1 単位×5 領域)	
		領域に関する専門的事項 (4) (必修)：領域の学問的・技術的基礎習得 (1 単位×4 領域)		
		幼児教育方法 (1) (必修)：幼児教育方法に関する演習を含む	主実習・主実習事後指導 (1.5) (必修)：保育内容の指導の見学 (必修) (保育内容の総論で実施予定)	保育実習ⅠA・事前事後指導 (1.5) (必修)：(保育所での 2 週間実習と事前事後指導)：保育の実践理解 (その 1)
1 年生	領域に関する専門的事項 (5) (必修)：領域の学問的・技術的基礎習得 (1 単位×5 領域)		保育内容総論 (2) (必修)：保育内容の全体的理解 幼児理解と教育相談の理論及び方法 (カウンセリングの基礎的知識を含む) (2) (必修)：幼児理解の方法と発達支援の方法の学習	
	教師への道 (1)：教育的課題について主体的協働的に学び合うことを通して、教員をめざす自らの学びの方向性を確認する		領域に関する専門的事項 (5) (必修)：領域の学問的・技術的基礎習得 (1 単位×5 領域)	子どもの主体的・対話的で深い学びを見取り支える力を高める演習 (幼児教育概説内で実施) (必修)

【養護教諭養成課程カリキュラム構想図】＊地域教育コースは地域教育プログラム科目をあわせて履修します

カリキュラムの理念：高度な教育実践力を養護教諭の養成

実習（及び事前・事後科目）を軸とし、大学の授業で培った知識や思考力等が連動する、教育実践力向上カリキュラム。「保健管理」と「保健教育」を連動させた「学校保健活動推進力」を有する教員の育成。

	1 学期	2 学期	3 学期	4 学期
4 年生	養護に関する科目 (2)：健康相談活動 (実践)		教職実践演習 (中学校) (2)	
	指導法開発Ⅱ (2) (繰り返し履修)：授業研究マネジメント		教職実践演習 (養護教諭) (2)	
3 年生	教育実習Ⅲ：副実習 (2 週間)		教職実践インターンシップ (1) (必修)	
	指導法開発Ⅰ (2)：教材・単元開発と学習評価		内容開発 (2)：教材・単元開発	
	養護に関する科目 (5)：養護診断、障害児保健、臨床実習、薬物と人間、看護学 (連携・協働)		養護に関する科目 (3)：公衆衛生学・衛生学、健康相談活動 (理論)	
	養護実習Ⅱ (3)：主実習 (附属 (1 学期 1 週間) + 協力校 (3 学期 2 週間))		養護実践研究、性教育、微生物学、疫学・衛生学、予防医学	教育実習Ⅲ：副実習 (2 週間)
2 年生	養護実習基礎研究 (2) 2 年次から継続：実習事後指導			
	養護に関する科目 (8)		養護に関する科目 (5)	
	公衆衛生学・衛生学、小児保健、看護学、学校保健演習、人体の機能 (演習)、発育発達論、歯科保健		学校看護学、救急処置、精神保健、眼科学、皮膚科学、耳鼻咽喉科学、整形外科学	
1 年生	指導法Ⅰ (1)：教科の各領域の教材論と指導法		指導法Ⅱ (1)：教科の教材・単元デザイン	
	養護実習Ⅰ (1) (4 日間)：保健室観察 (4 校園) 1・2・3 学期の間に小グループごと			
	養護実習基礎研究 (2)：実習事前指導			
1 年生	養護に関する科目 (4)		養護に関する科目 (8)	
	人体の構造、養護概説、免疫学		人体の機能、栄養学、学校保健、養護活動論、保健指導論	
教師への道 (仮称) (1)：教育的課題について主体的協働的に学び合うことを通して、教員をめざす自らの学びの方向性を確認する				養護実習基礎論 (1)：養護実践の基礎 観察・分析法

4. 教職実践ポートフォリオの使い方について

(1) 教職実践ポートフォリオの目的

教師としての自覚を高め、自らが教師になるためのもつべき資質能力の獲得のために、自らの課題を認識し、克服するとともに、自らの長所を客観的に評価し伸長することができるようになることを目的としています。カリキュラム全体を通して学習内容や課題を学生同士および担当教員と共有し、自ら意識し説明できる内省を促し、実習や様々な実践に向けて取り組む、学び続ける力の向上に寄与します。

(2) 教職実践ポートフォリオの内容

教職実践ポートフォリオの内容は、以下の通りです。

① 1年次4学期（なりたい教員像の記入、事前面談、事後面談、1年次の自己採点（評価）の実施）

1年次「教育実習基礎論（または養護実習基礎論）」開始時に「なりたい教師像」を記入します。

『卒業時の到達目標』と、1年次の段階で達成すべき『1年次到達目標』を確認し、担任教員と面談を行い、その助言等の内容をポートフォリオに記録します。

「教育実習基礎論（または養護実習基礎論）」最終日には、必要な資質能力についての自己採点（評価）を行い、どのような学びの成果がその評価となったのか、できるだけ具体的に、科目等の内容や演習の場面を想起しながら、得た知識や気づきなど教育実践力の学びの基盤となったのかを記録します。

② 2年次

1) 1学期1学期（2年次の到達目標立案、面談を行うこと）

2年次は、1学期開始時に、『卒業時の到達目標』と、2年次の段階で達成すべき『2年次到達目標』を確認し、目標達成において1年次に達成できなかった課題において取り組みたいこと、2年次の講義・演習・実習、ボランティア等を含めて教育実践力獲得のために取り組みたいこと、学びたいことを記入します。そして、担任教員に説明したいこと、伝えたいことを面談で話し、その助言等の内容をポートフォリオに記録します。

***面談の日程は、担当の先生と相談して決定しましょう。**

2) 3学期（実習開始前、記録し、面談を行うこと）

『2年次到達目標』を確認し、実習前に、実習目標の立案、特に実習で観察したい授業や実践、学校組織の理解などについて、様々な方法を用いて調べてポートフォリオに記録します。そして、担任教員に説明したいこと、伝えたいことを面談で話し、その助言等の内容をポートフォリオに記録します。

***面談の日程は、担当の先生と相談して決定しましょう。**

3) 4学期（実習終了後、記録し、面談を行うこと）・2年次の自己採点（評価）の実施

3学期の実習開始前の面談の記録を振り返り、実習後に、実習での学びの成果の報告と、『2年次到達目標』を確認し、ポートフォリオに記録します。そして、実習での資料や記録も持参して説明し、担任と面談で話し、その助言等の内容をポートフォリオに記録します。

さらに、4学期の面談では、4つの教育実践力の達成状況について、自己採点（評価）を行い、「学べた具体的な内容・授業で理解できた事柄」と、「3年生において、できなかったことへの解決への取り組みや、やりたいこと」を記録し、面談時に担任教員に具体的に伝えます。

***面談の日程は、担当の先生と相談して決定しましょう。**

③3年次

1) 1学期（3年次の到達目標立案，面談を行うこと）

3年次は，1学期開始時に，『卒業時の到達目標』と，2年次までの達成状況をふまえて，3年生として自らが達成すべき目標を立案します。目標は，下位の構成する力のA1～A5，B1～B3，C1～C3，D1～D3それぞれに立案するのではなく，4つの力について，自己目標を立案します。

指導教員との面談では，自己目標立案の理由など，2年次までの学びをふまえて，3年次で達成したいこと，達成すべきことを具体的に考えた内容を記入し，説明を行いましょう。

面談の記録には，教育実践力における自己の得意分野の伸長と自己課題の解決のために，3年次の講義・演習・実習，ボランティア等を含めて取り組みたいこと，学びたいことを記入します。そして，指導教員に説明したいこと，伝えたいことを面談で話し，その助言等の内容をポートフォリオに記録します。

***面談の日程は，担当の先生と相談して決定しましょう。**

2) 3学期（実習開始前，記録し，面談を行うこと）

『3年次到達目標』を確認し，実習前に，実習目標の立案，特に実習で取り組む授業や実践，児童生徒等との関係づくり，学校組織の理解などを様々な方法を用いて調べてポートフォリオに記録します。そして，指導教員に説明したいこと，伝えたいことを面談で話し，その助言等の内容をポートフォリオに記録します。

***面談の日程は，担当の先生と相談して決定しましょう。**

3) 4学期（実習終了後，記録し，面談を行うこと）・3年次の自己採点（評価）の実施

3学期の実習開始前の面談の記録を振り返り，実習後に，実習での学びの成果の報告と，『3年次到達目標』を確認し，ポートフォリオに記録します。そして，実習での資料や記録も持参して説明し，指導教員と面談で話し，その助言等の内容をポートフォリオに記録します。

さらに，この4学期の面談では，4つの教育実践力の達成状況について，自己採点（評価）を行い，「学べた具体的な内容・授業で理解できた事柄」と，「4年生において，できなかったことへの解決への取り組みや，やりたいこと」を記録し，面談時に指導教員に具体的に伝えます。

***面談の日程は，担当の先生と相談して決定しましょう。**

④4年次

1) 1学期（4年次の到達目標立案，面談を行うこと）

4年次は，1学期開始時に，『卒業時の到達目標』と，3年次までの達成状況をふまえて，自らの4年次の最終到達目標を立案します。目標は，『卒業時の到達目標』の下位の構成する力のA1～A5，B1～B3，C1～C3，D1～D3を確認し，4つの力について，より伸長したい自己の得意分野と到達における自己課題を明らかにできる自己の目標を立案します。指導教員との面談では，自己目標の立案の理由など，3年次までの学び，および卒業時までに関心する実践力の内容をふまえて，卒業時までに関心すること，達成すべきことを具体的に説明しましょう。そして，面談の記録には，教育実践力における自己の得意分野の伸長と自己課題の解決のために，4年次の講義・演習・実習，教職実践インターンシップ，ボランティア等を含めて取り組みたいこと，学びたいことを記入します。そして，指導教員に説明したいこと，伝えたいことを面談で話し，その助言等の内容をポートフォリオに記録します。

***面談の日程は，担当の先生と相談して決定しましょう。**

2) 3 学期（教職実践インターンシップ開始前、記録し、面談を行うこと）

『4 年次到達目標』を確認し、教職実践インターンシップ前に、インターンシップの目標の立案、授業や実践、学校組織の理解などを様々な方法を用いて調べてポートフォリオに記録します。指導教員に説明したいこと、伝えたいことを面談で話し、その助言等の内容をポートフォリオに記録します。

***面談の日程は、担当の先生と相談して決定しましょう。**

3) 4 学期（教職実践インターンシップ終了後、記録し、面談を行うこと）・4 年次の自己採点（評価）の実施と、『卒業後、1 年目にめざす教師像』の記入

3 学期の教職実践インターンシップ開始前の面談の記録を振り返り、教職実践インターンシップ後に、教職実践インターンシップでの学びの成果の報告と、『4 年次の最終到達目標』を確認し、ポートフォリオに記録します。そして、教職実践インターンシップでの資料や記録も持参して説明し、指導教員と面談で話し、その助言等の内容をポートフォリオに記録します。

さらに、4 学期の面談では、4 つの教育実践力の達成状況について、自己採点（評価）を行い、「学べた具体的な内容・授業で理解できた事柄」と、「初任時にむけて準備したいこと・すべきこと」を明確にし、自己の目標を意識してポートフォリオに記録します。

この4 年間の記録は『教職実践演習』で、自らのデータファイルである履修カルテとして活用します。

最後に『卒業後、1 年目にめざす教師像』を記入します。1 年次の開始時に記入した『なりたい教師像』を改めてみることで、1 年次からの記録を読み返し、自分の成長と学びを確認しましょう。皆さんが学部4 年間で身につけた資質能力を確認・証明する大切な資料です。

以上を記録・確認した上で、面談で指導教員に説明し、助言を受けましょう。

***面談の日程は、担当の先生と相談して決定しましょう。**

表3 ポートフォリオ目標作成と記録記入・担当教員との面談の時期

学年	1 学期	2 学期	3 学期	4 学期
1 年次				教育実習基礎論の授業で作成 ↑ ・教師像記入 ・事前記録・面談 ↑ ・事後記録 ・面談 ・自己採点（評価）
2 年次	学期はじまりに担任と日程調整 ↑ ・1 年次までの達成状況振り返り ・2 年次達成目標確認 ・自己記録、担任と面談		実習開始前に担任と日程調整 ↑ ・目標再確認、自己記録 ・実習準備状況等確認面談	実習終了後に担任と日程調整 ↑ ・実習等で獲得した実践力・自己記録 ・2 年次の達成状況自己採点（評価）
3 年次	学期はじまりに指導教員と日程調整 ↑ ・2 年次までの達成状況振り返り ・3 年次の到達目標作成 ・自己記録、指導教員と面談		実習開始前に担任と日程調整 ↑ ・目標再確認、自己記録 ・実習準備状況等確認面談	実習終了後に担任と日程調整 ↑ ・実習等で獲得した実践力・自己記録 ・3 年次の達成状況自己採点（評価）
4 年次	学期はじまりに担任と日程調整 ↑ ・3 年次までの達成状況振り返り ・4 年次の到達目標作成 ・自己記録、指導教員と面談		インターンシップ開始前に担任と日程調整 ↑ ・目標再確認、自己記録 ・インターンシップ準備状況等確認面談	インターンシップ終了後に担任と日程調整 ↑ ・インターンシップ等で獲得した実践力・自己記録 ・最終達成状況自己採点（評価） ・教師像記入